

山口・梅光学院の生徒がキャスト、スタッフを務めた映画が劇場公開へ

# 戦争の恐怖、悲しみ伝えたい

山口県下関市の私立梅光学院中学・高校の生徒がキャストやスタッフを務め、同校を舞台に撮影されたミュージカル映画「隣人のゆくえ —あの夏の歌声—」が、8月に東京、横浜など全国のミニシアターで上映されることになった。



※記者会見以外の写真は柴口さん提供

映画のラストシーンでは、生徒たちと重ね合わせるように上垣内茂夫さん撮影の写りが登場する



上垣内愛佳さん(高3) 撮影  
曾祖父が下関空襲の惨状を撮影した上垣内茂夫さんだと応募後にわかり、撮影を担当することに。



## 隣人のゆくえ —あの夏の歌声—

両親が離婚した日、高校生・野村カナナ(正司怜美)は忘れ物を取りに学校に戻る。夏休み中で生徒はいないはずが、立ち入り禁止の旧校舎から歌声が聞こえた。歌劇部の生徒たちが練習中だった。部室に招かれたカナナは「夏の間だけ一人の観客になって」と頼まれるが、部員の一人、丸山小梅(岡本ゆうか)からは疎まれる。その理由は……(77分)

新宿K's cinema(8月12日～)など、全国で公開  
特別鑑賞券 1200円  
公式サイト <https://rinjinyukue.wixsite.com/rinjinnoyukue>

STORY

主)であったことが応募後にわかり、撮影を担当することになった。映画完成から1年後の昨年11月、東京都多摩市で開催されたコンテスト「TAMANEWAVE」で、114の応募作品からコンペティション部門参加の5作品に選ばれた。映画の配給・宣伝をしている細谷隆広さん(61)の目に留まり、劇場での公開が決まった。「みずみずしい十代の少女たちの歌と踊りに心を打たれた。多くの人に見てもらいたい」と細谷さん。

梅光学院中学・高等学校の島田清校長は、「柴口さんの指導のおかげもあり、教師主導ではなく、生徒自身の自由な発想を引き出す教育をこれまで以上に推し進めている。生徒一人ひとりの自信も芽生えつつあると感じる」と話している。

コメント「曲は一人一人の出演者のテーマソングになっていて、その人の雰囲気とかを考えて作りました。2回目の『はじまりのふたこと』では空襲写真も映されるので、恐怖とか悲しみなども考えながら作曲しました。作曲はこれからも続けていきたい」



正司怜美さん(高3)  
主演・野村カナナ役/作曲  
「素の演技」で主役の野村カナナを務めた上、曲作りにも才能を発揮。「はじまりのふたこと」など3作を作曲。「詩からメロディーを作ることができ、(こちらは)メロディーから詩も作ることができた」と柴口監督も絶賛。



映画の東京公開の前に、記者会見に臨んだ(左から)監督の柴口さん、主演の正司さん、助監督の竹内さん、ミュージカル部の部長として歌劇部の部長役を演じた福田麗さん(大学1年)(6月3日、東京都文京区で)



コメント「全国公開はすごすぎて、まだ実感がわきません。自分たち中高生がーから音楽を作ったり、振り付けも行ったミュージカル映画です。同世代の人たちには戦争のことを考えるきっかけとなってもらえればと思います」

竹内義晶さん(高3) 助監督/作曲  
助監督としてメンバーのスケジュール調整に奔走。劇中歌も、「70歳になったら」と「エルフ」の2曲を作った。



岡本ゆうかさん(高1) 丸山小梅役  
野村カナナが歌劇部室に招待された時から、彼女を疎む役柄を演じる。

## 市井の人の思いを現代に

映画のテーマは太平洋戦争中の下関空襲。米軍機による市中心部への焼夷弾投下で300人以上の犠牲者が出た。監督・脚本の柴口勲さん(49)は下関市在住の会社員で、動画の撮影や編集が趣味。母校の中学校で学校ドキュメントなどの制作に当たっていた2012年、下関空襲直後の惨状をとらえた写真の存在を知り、この空襲をテーマにした映画を作りたいと思うようになった。

「プロが作る映画ではなく、作り手の『素顔』が見える作品にした」と構想を練っていた時、歴史と風格ある校舎のたたずまいに引きつけられ、梅光学院にスタッフ募集を持ち掛けた。軽音楽部やミュージカル部などの生徒を中心に約40人の応募があり、出演や振り付け、作曲、演奏、歌唱、撮影、録音などの担当を決めてワークショップ形式で制作を進めた。

## 仲間と作り上げる意義

ミュージカル映画の重要な部分を占める劇中歌づくりで才能を発揮し、主演も務めた正司怜美さん(17)は、「戦争の恐怖や悲しみを考えながら作曲し、演じ、歌い出した」と振り返り、「特に同世代の人に見てもらいたいと思います」と劇場公開に期待を込める。

上垣内愛佳さん(18)は、空襲直後の写真を撮影したのが曾祖父の上垣内茂夫さん(当時の写真店